

「三重県産米と農業生産工程管理(GAP)に関するアンケート」の実施結果報告

この度は、「三重県産米と農業生産工程管理(GAP)に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。

アンケート結果を下記のとおり報告いたします。また、この結果につきましては、今後の業務の参考とさせていただきます。

アンケート概要

1 アンケート実施期間

令和3年2月15日(月)から令和3年3月1日(月)まで

2 回答率等

対象者数 952 人

回答者 566 人

回答率 59 %

3 回答者の属性

年代別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	2人	26人	110人	143人	128人	105人	52人
割合	0.4%	4.6%	19.4%	25.3%	22.6%	18.6%	9.2%

地域別

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	270人	167人	64人	53人	12人
割合	47.7%	29.5%	11.3%	9.4%	2.1%

※ 北勢 : 四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢 : 津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩 : 伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀 : 名張市、伊賀市

東紀州 : 尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

※ 割合は小数点第2位を四捨五入

4 アンケート結果

(Q1 お米を消費する世帯の人数について)

あなたの世帯の人数は何人ですか。

選択肢	人数	割合
1人	45人	8.0%
2人	186人	32.9%
3人	136人	24.0%
4人	123人	21.7%
5人	56人	9.9%
6人以上	20人	3.5%
合計	566人	100%

【分析】

アンケートにお答えいただいた世帯の人数としては、割合の高い順に「2人世帯」が32.9(31.4)%、「3人世帯」が24.0(25.0)%、「4人世帯」が21.7(21.9)%と、これらの世帯で78.6(78.3)%を占めており、年々世帯の少人数化が進んでいることがわかりました。昨年度も同様の傾向でした。

※()は昨年度調査の数値

(Q2 お米の消費量について)

あなたの世帯では、1か月間にどのくらいのお米を食べますか。

選択肢	人数	割合
0 kg ~ 5 kg 未満	143人	25.3%
5 kg ~ 10 kg 未満	220人	38.9%
10 kg ~ 15 kg 未満	104人	18.4%
15 kg ~ 20 kg 未満	48人	8.5%
20 kg ~ 25 kg 未満	24人	4.2%
25 kg ~ 30 kg 未満	16人	2.8%
30 kg 以上	11人	1.9%
合計	566人	100%

【分析】

1世帯当たりの1か月間のお米の消費量は、割合の高い順に「5kg~10kg 未満」が38.9(36.1)%、「0kg~5kg 未満」が25.3(29.9)%、「10kg~15kg 未満」が18.4(18.1)%でした。こちらも昨年度と同様の傾向です。農林水産省の資料

によると令和元年度のお米の1人当たりの年間消費量は53kgで、1か月あたりにすると4.4kgほどで、年々減少傾向にあり、今回のアンケートは1世帯当たりの1か月間のお米の消費量の結果ですが、相関があるように思います。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q3 お米の入手方法について)

あなたの世帯では、主にどのような方法でお米を購入(入手)していますか。あてはまるものを1つ選んでください。「自分の家で生産している」を選んだ方はQ5へお進みください。

選択肢	人数	割合
スーパーや生協等の量販店で購入	237 人	41.9 %
農協やAコープ等で購入	32 人	5.7 %
米穀専門店で購入	13 人	2.3 %
インターネットや通販等で購入	24 人	4.2 %
農家(知り合いや親族が農家の場合を含む)から直接購入	118 人	20.8 %
知り合い(親族含む)からもらう	89 人	15.7 %
自分の家で生産している	37 人	6.5 %
その他	16 人	2.8 %
合計	566 人	100 %

【分析】

お米の購入(入手)方法については、「スーパー等の量販店、農協等の店舗や通販などでお米を購入する」という方が全体の54.1(50.3)%と半数以上ある一方、「農家や親族、知り合いから直接購入する、もらう等」でお米を入手している方が36.5(25.3)%あり、「自分の家で生産している」の6.5(5.9)%を加えると、4割余りの方は、比較的身近なお米を食べていることがわかります。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q4 お米の選び方について)

Q3で「自分の家で生産している」以外を選んだ方にお聞きします。あなたが、お米を購入(入手)される際に基準にしていることは何ですか。主なものを3つまで選んでください。

選択肢	人数	割合
価格	264 人	49.9 %

品種や銘柄	259 人	49.0 %
産地	207 人	39.1 %
生産者	53 人	10.0 %
安全性	132 人	25.0 %
味	143 人	27.0 %
鮮度 (精米日)	59 人	11.2 %
無洗米	30 人	5.7 %
パッケージ	1 人	0.2 %
知り合い (親族含む) が作っている	109 人	20.6 %
特に基準はない	18 人	3.4 %
その他	12 人	2.3 %

【分析】

お米を入手される際の基準では、割合の高い順に、「価格」が 49.9 (50.5) %、「品種や銘柄」が 49.0 (44.4) %、「産地」が 39.1 (38.5) %、「味」27.0 (24.0) %、「安全性」が 25.0 (22.4) %となり、昨年度と全く同じ結果となりました。

※ () は昨年度調査の数値

(Q5 好きなお米の味や食感について)

あなたは、どんな味や食感のお米 (ごはん) が好きですか。あてはまると思うものをすべて選んでください。

選択肢	人数	割合
もちもちしている	348 人	61.5 %
しゃっきりしている	90 人	15.9 %
パラパラしている	17 人	3.0 %
ねばりがある	135 人	23.9 %
さっぱりしている	36 人	6.4 %
かためのごはん	161 人	28.4 %
やわらかめのごはん	115 人	20.3 %
甘い	223 人	39.4 %
よいにおい (かおり) がする	212 人	37.5 %
白くてきれい	148 人	26.1 %
つやつやしている	290 人	51.2 %
米粒が大きい	68 人	12.0 %
その他	6 人	1.1 %
お米 (ごはん) は好きではない	4 人	0.7 %

年代による食味の好み（選択実人数）

年代	かためのごはん (A)	やわらかめのごはん (B)	A/B	(参考) 前年度 A/B
10代・20代	7人	4人	1.75	2.13
30代	31人	15人	2.07	3.06
40代	49人	18人	2.72	3.10
50代	36人	26人	1.38	1.14
60代	27人	35人	0.77	1.09
70代以上	11人	17人	0.65	0.76
全年代	161人	115人	1.40	1.68

【分析】

お米（ごはん）の「食感」の好みについては、割合の高い順に、「もちもちしている」61.5（59.0）%、「かためのごはん」28.4（33.1）%、「ねばりがある」23.9（23.4）%、「やわらかめのごはん」20.3（19.7）%と昨年度と全く同じ順となりました。また、昨年と同様、「かためのごはん」と「やわらかめのごはん」のどちらが好みかという点について年代別に見ると、年代が若い方がかためのごはんを好む傾向にありました。「味」については、割合の高い順に、「甘い」39.4（39.8）%、「よいにおい（かおり）がする」37.5（34.7）%とこちらも昨年と全く同じ傾向となりました。このほか、「つやつやしている」が51.2（52.0）%、「白くてきれい」が26.1（26.1）%など、「外観（見た目）」も「味」と同様に重要であり、みなさんに『選ばれるお米』に求められるポイントとして「もちもち」、「つやつや」、「甘み」、「よいにおい」、「白くてきれい」、「ねばり」といった点が重要となりそうです。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q6 お米の産地について)

あなたの世帯で購入（入手）するお米は三重県産米ですか。

選択肢	人数	割合
常に三重県産米である	268人	47.3%
だいたい（7割～9割程度）三重県産米である	116人	20.5%
三重県産米と他県産米とがほぼ半々（4割～6割程度）である	74人	13.1%
たまに（1割～3割程度）三重県産米である	65人	11.5%

常に他県産米である	43 人	7.6 %
合計	566 人	100 %

【分析】

購入（入手）されるお米の産地としては、「常に三重県産」が 47.3 (48.1) %、「だいたい三重県産」が 20.5 (23.1) %、「三重県産と他産地がほぼ半々」が 13.1 (11.4) %、「たまに三重県産」が 11.5 (10.0) %、「常に他県産」が 7.6 (7.4) % という結果となりました。「常に三重県産」と「だいたい三重県産」の 2 つを合わせると、主として三重県産米を購入（入手）されている方の割合が全体の 67.8 (71.2) % を占めており、多くの方が三重県産米を食べている一方、年々少しずつその割合は低下傾向にありますので、もっと三重県産のお米に興味を持っていただき、食べてもらえるよう PR していきたいと思えます。

※（ ）は昨年度調査の数値

(Q7 三重県産米の銘柄や品種について)

あなたは、三重県で作られているお米の銘柄や品種について、知っているものすべてを選んでください。

選択肢	人数	割合
三重のコシヒカリ	504 人	89.0 %
伊賀米コシヒカリ	364 人	64.3 %
結びの神（品種名：三重23号）	115 人	20.3 %
みえのえみ	125 人	22.1 %
みえのゆめ	93 人	16.4 %
キヌヒカリ	139 人	24.6 %
みのりの郷	8 人	1.4 %
その他	16 人	2.8 %
知っているものはない	18 人	3.2 %

【分析】

三重県で作られているお米の銘柄や品種については、「三重のコシヒカリ」は 89.0% と多くの方に知られており、次いで、「伊賀米コシヒカリ」64.3% となりました。一方、コシヒカリ以外となると、知られている割合の高いものでも 2 割余りとまだまだ認知度が低い結果であるため、三重のお米をもっと PR する必要があると感じました。

(Q8 無洗米について)

あなたは、お米をとぎ洗いをせず、そのまま水を足しただけで炊ける「無洗米」を知っていますか。

選択肢	人数	割合
知っており、いつも使っている	38 人	6.7 %
知っており、時々使っている	42 人	7.4 %
知っており、以前、使ったことがある（今は、使っていない）	187 人	33.0 %
知っているが、使ったことはない。ただし、興味はある	144 人	25.4 %
知っているが、使ったことはないし、まったく興味がない	137 人	24.2 %
名前は聞いたことがあるが、どのような米か知らない	17 人	3.0 %
まったく知らない	1 人	0.2 %
合計	566 人	100 %

【分析】

無洗米について、「知っている」と回答された方は96.7%と多くの方に知られていることがわかりました。一方、無洗米を知っている方の中で「使っている」、「使ったことがある」方は47.1%と、「使ったことがない」方の割合49.6%とほぼ同程度でしたので、「使ったことがない」方は、無洗米を一度試していただくのもいいかもしれません。

（Q9 無洗米の特長について）

Q8で無洗米を「知っており、いつも使っている」「知っており、時々使っている」「知っており、以前、使ったことがある（今は、使っていない）」「知っているが、使ったことはない。ただし、興味はある」を選択された方にお聞きします。あなたは、無洗米に対してどのようなイメージを持っていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択肢	人数	割合
手間がかからず便利	326 人	79.3 %
水が節約でき経済的	165 人	40.1 %
環境にやさしい（お米のとぎ汁が出ない）	126 人	30.7 %
水を入れるだけなので誰が炊飯しても同じ出来上がり	46 人	11.2 %

ぬか層のみ除いているので、うまみ成分が残っており、美味しい	31 人	7.5 %
お米をとき洗いしないので、ぬかの成分が残り、おいしくなさそう	46 人	11.2 %
お米をとき洗いしないため、不衛生な気がする	52 人	12.7 %
値段が高い、高そうである	104 人	25.3 %
その他	20 人	4.9 %

【分析】

無洗米に対するイメージについては、割合の高い順に、「手間がかからず便利」79.3%、「水が節約でき経済的」40.1%、「環境にやさしい（お米のとき汁が出ない）」30.7%という結果となりました。これら以外の無洗米の利点である「水を入れるだけなので誰が炊飯しても同じ出来上がり」、「ぬか層のみ除いているので、うまみ成分が残っており、美味しい」といった点についても、もっと知っていただければと思います。また、「値段が高い、高そうである」、「おいしくなさそう」、「不衛生な気がする」といった負のイメージを持たれている方も、まだまだお見えでした。

(Q10 農産物を購入する際に考慮する内容について)

あなたが、農産物を購入するときに最も意識することは何ですか。

選択肢	人数	割合
安全・安心な農産物	329 人	50.1 %
環境に配慮した農産物	7 人	1.2 %
品質が良く、おいしい農産物	170 人	30.0 %
フェアトレードなど、人権に配慮され生産された農産物	0 人	0.0 %
価格が安い農産物	52 人	9.2 %
その他	8 人	1.4 %
合計	566 人	100 %

【分析】

農産物を購入する際に考慮する内容についてお聞きしたところ、「安全・安心な農産物」と回答された方が最も多く 50.1%でした。次いで、「品質が良く、おいしい農産物」が 30.0%でした。

(Q11 農産物の情報の入手方法について)

あなたは、購入される農産物の情報を何から得ていますか。利用の多いものを3つまで選んでください。

選択肢	人数	割合
新聞折込チラシ	206 人	36.4 %
テレビ・ラジオ・CM	104 人	18.4 %
SNS (ツイッター、フェイスブック、ライン等)	49 人	8.7 %
友人・知り合い	99 人	17.5 %
生活協同組合	92 人	16.3 %
通販会社	14 人	2.5 %
スーパー等で見え買う	448 人	79.2 %
その他	19 人	3.4 %

【分析】

農産物の情報の入手方法についてお聞きしたところ、「スーパー等で見え買う」と回答された方が最も多く 79.2%でした。次いで、「新聞折込チラシ」が 36.4%でした。

(Q12 GAP(ギャップ)認証農産物の認知度について)

あなたは、GAP 認証農産物についてご存じですか。

選択肢	人数	割合
知っており、GAP 認証農産物を選んで購入している	6 人	1.1 %
知っている	67 人	11.8 %
聞いたことはあるが、内容は知らなかった	147 人	26.0 %
知らなかった	346 人	61.1 %
合計	566 人	100 %

【分析】

GAP(ギャップ)認証農産物の認知度についてお聞きしたところ、「知らなかった」と回答された方が最も多く 61.1%でした。昨年度調査と比べて同ポイントでした。しかしながら、「知っている」と回答された方は、「知っており、GAP 認証農産物を選んで購入している」と合わせて 12.9%と、昨年度調査の 7.4%と比べ、5.5ポイント高くなりました。

(Q13 農産物取引におけるGAP(ギャップ)認証の要件化の評価について)

あなたは、国内の食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）が、GAP 認証を取引の要件としたり、優先的に取引したりすることについてどう思いますか。

選択肢	人数	割合
評価する	200 人	35.3 %
評価しない	6 人	1.1 %
わからない、どちらともいえない	360 人	63.6 %
合計	566 人	100 %

【分析】

農産物取引におけるGAP(ギャップ)認証の要件化の評価についてお聞きしたところ、「わからない、どちらともいえない」と回答された方が最も多く63.6%でした。一方で、「評価する」と回答された方は、35.3%と、一定の評価が得られました。

食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）を通じて、GAP 取組について周知できるよう取り組んでいきます。

(Q14 GAP(ギャップ)認証を受けて生産された農産物の購入について)

あなたは、今後GAP 認証を受けた農産物を購入したいと思いますか。

選択肢	人数	割合
割高になっても購入したい	31 人	5.5 %
同程度の価格であれば購入したい	294 人	51.9 %
購入したいと思わない	9 人	1.6 %
わからない、どちらともいえない	232 人	41.0 %
合計	566 人	100 %

【分析】

GAP(ギャップ)認証を受けて生産された農産物の購入についてお聞きしたところ、「同程度の価格であれば購入したい」と回答された方が最も多く51.9%でした。一方で、「わからない、どちらともいえない」と回答された方が、41.0%と次に多い結果となりました。

GAP 農産物を「同程度の価格であれば購入したい」の回答が過半数を占めたことは、GAP の価値を認識いただいていると考えます。今後は、「わからない、どちらともいえない」とお答えいただいた方々に、GAP の価値をお伝えしていきます。

(Q15 国際水準GAP(ギャップ)認証取得の必要性について)

あなたは、日本の農産物が国際水準 GAP(ギャップ)認証を取得することは必要だと思いますか。

選択肢	人数	割合
農産物の安全・安心を確実にするために必要である	212 人	37.5 %
地球環境を保全するために必要である	66 人	11.7 %
日本の農産物は安全だから必要ない	34 人	6.0 %
価格に反映されるのであれば必要ない	29 人	5.1 %
わからない、どちらともいえない	225 人	39.8 %
合計	566 人	100 %

【分析】

国際水準GAP(ギャップ)認証取得の必要性についてお聞きしたところ、「わからない、どちらともいえない」と回答された方が最も多く 39.8%でした。

国際水準GAP(ギャップ)認証取得については、農産物の安全・安心を確実にするために必要であるというご意見が 37.5%と次に多い回答でした。

GAP が農産物の安全・安心に貢献できることに加えて、地球環境を保全し、持続的な農業経営の確立にも貢献できることを、食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）などに周知できるよう取り組んでいきます。

(Q16 e-モニターアンケートに参加したご感想について)

選択肢	人数	割合
とても感じる	167 人	29.5 %
どちらかといえば感じる	351 人	62.0 %
どちらかといえば感じない	37 人	6.5 %
全く感じない	4 人	0.7 %
その他	7 人	1.2 %
合計	566 人	100 %

多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

